

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：2歳児クラス)

モニカ三軒茶屋園

Monica

テーマ

虫

設定理由

戸外で虫を見つけて触った経験から虫に親しみを持つようになり、自分で捕まえたり捕まえた虫を観察したりする中で、虫の生態に興味を持ち始めた。好奇心から強く触れたり虫かごを揺らしたりする子どももいるため、探究を進めていく中で、小さな虫に命があることを知り、大切にすることを育んでいきたい。

対象クラス

2歳児クラス・6名

活動のねらい

身近な虫の暮らしを知る

キーワード

「どんなところにいるのかな」
「何を食べるのかな」

活動期間

令和7年5月～10月

活動回数

計6回

活動①

戸外に出かけ、虫を探し、虫メガネで観察したり、持ち帰って観察する

問 い

「虫はどんなところにいるのかな」

準備物

虫かご 中・大 | 昆虫図鑑(2) | 虫網(2)

環境構成

- 遊具のない公園にでかける
- 2チームで散策する(1チーム3人)



虫

テーマを設定する

「虫はどんなところにいるのかな」という問いをもとに、戸外に出かけて虫を探し観察した。

活動① ～戸外に出かけ、虫を探し、虫メガネで観察したり、持ち帰って観察～

「虫はどんなところにいるのかな？」という問いをもとに戸外に出かけ、虫を探し、虫メガネで観察する。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・虫かご（中）（大）
- ・昆虫図鑑2
- ・虫網2

事前の試し

- ・季節の虫や触れてはいけない虫を把握する
- ・公園に虫がいるかを確認する

探究活動を実践する

●活動内容

戸外に出かけ、虫を探し、虫メガネで観察したり、持ち帰って観察する

●子どもたちの様子

- 「虫はどんなところにいるのかな」という問いに対して公園内をじっくり観察して虫を探す
- 「あり、ダンゴムシ、てんとう虫、蝶々いたよ」虫を見つけ友だちや保育者に教えに行く
- 地面に穴が開いていることに気づき疑問を持つ
- 虫網を使って自分で虫を捕まえようとする



振り返りをふまえた気づき

公園にいろいろな虫がいることに気づいていた。自分で虫を捕まえたい気持ちが強く、虫網を持ち蝶々を追いかけていると、蝶々の飛ぶ速さが速いことに気づいている子がいた。最初は素手で虫を捕まえることに困惑していたが、徐々に慣れることでてんとう虫やダンゴムシ等を捕獲し楽しむ姿が見られた。虫を触ることが苦手な子は友だちの様子を観察していた。地面に穴が開いているのを見つけて、そこからありが出たり入ったりしている不思議さを感じている子どもがいると、ありの家だということに気づき教えてあげる子どももいた。子どもたちが1匹の弱った虫を観察していると「かわいそう」「がんばれ」と言葉を交わす姿が見られた。

虫を捕まえて観察する

R7.5.23 大島



「今日はなんの虫がいるかな？」
「葉っぱのところにいるかな？」
と虫がどんなところにいるかを考えながら
広場に向かっていった子どもたち。

花壇や草が生い茂っている場所にいるかも
しれないと予想し、虫を探していると…
「ちょうちょだ！」「それ！」
虫を見つけ、虫網を持って追いかけていきます。

虫が逃げても、
「早かったね」「次は捕まえられるといいね」
と前向きな言葉が飛び交っていました。

「なにかいたよ！」と声がすると
子どもたちは自然と集まり、
輪になって対話が始まります。

「何の虫？」
「どうしたのかな」
「がんばれー」
「あっちにも虫がいるかな」
「捕まえてみよっか」



捕まえた虫は虫かごに入れて持ち帰り
図鑑と見比べたり虫眼鏡を覗いたりして
観察しました。

自分で捕まえる、捕まえてみようとすることや
本物を観察する経験は
より子どもたちの好奇心を刺激し、
探究心へと繋がっていきます。

「次はアゲハチョウを捕まえない！」
「どんなところにいるのかな？」
と次の活動に期待を持っていた
子どもたちでした。

活動②

捕まえた・見つけた虫の図鑑を作る

問 い

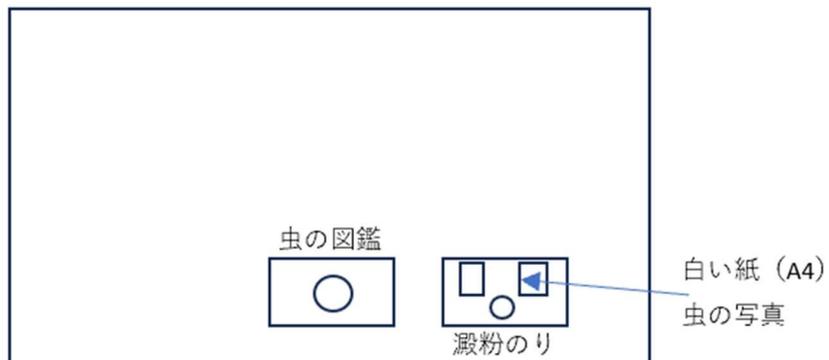
「虫の名前はなにかな・どこにいたかな」

準備物

白い紙(A4) | 澱粉のり | 虫の写真 | 透明シート | 虫眼鏡 | 虫の図鑑

環境構成

- 1,2歳児室を使用
- 虫の図鑑を用意する
- 3チームに分かれて行う(1チーム2人)



虫

テーマを設定する

「虫の名前は何か」「どこにいたかな」子どもたちの疑問とそれぞれの発見時の共有の時間として対話を持ちながら活動する

活動② ～図鑑づくり～

「虫の名前は何か?」「どこにいたかな?」という問いをもとに、自分たちで見つけた虫を共有しながら図鑑づくりを行う。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・虫の図鑑
- ・澱粉のり
- ・虫の写真
- ・虫眼鏡
- ・台紙となる白い紙

事前の試し

- ・子どもたちが散歩中に見つけた虫のよく映っている写真を検索
- ・七夕製作で糊を使う製作物に取り組めるようにした

探究活動を実践する

●活動内容

見つけた・捕まえた虫の図鑑をつくり、図鑑を持って戸外に虫を探しに行く。

●子どもたちの様子

- ・「この虫、〇〇にいた」「早くて捕まえられなかったんだよね」などと見つけた、捕まえた時のことを思い出して話す。
- ・「今度捕まえられるといいね」「いるかなあ」と期待を持つ。
- ・戸外で図鑑を持ち、「ここにいたよね」と以前虫を見つけた場所で同じ虫を探す。



振り返りをふまえた気づき

いつも見ている図鑑を作れると知り、嬉しい気持ちを表現していた。自分たちで見つけた虫を図鑑にすることで活動の振り返りにもなり、「またこの虫を見つけよう」と戸外に出かけて虫探しをすることを楽しみにする様子があった。玄関に手作り図鑑を掲示したことで、保護者や保育者に「〇〇で捕まえたんだよ」などと伝えていた。また、図鑑を持って広場に行くと、以前見つけた場所を覚えていて同じ場所で同じ虫を探してみる姿があった。



これまでに見つけたり捕まえたりした
虫を振り返りながら、
オリジナルの虫図鑑を作りました。



戸外へ出かける際にその図鑑を持っていくと、

「この虫、ここにいたよね」「捕まれなかったんだよね」「こっちで捕まえたんだよね！」

と以前の発見を思い出しながら話す姿が見られました。

図鑑づくりを通して、子どもたちは過去の体験を振り返り、

記憶をもとに自然との繋がりを感じているようでした。

活動③

ダンゴムシを育てる

問 い

「ダンゴムシは何を食べるのかな」「どんなところが好きなのかな」

準備物

虫かご(大) | 霧吹き | 虫眼鏡 | 昆虫図鑑(2) | 絵本『ダンゴムシみつけたよ』

環境構成

- 1,2歳児室を使用
- 虫かごは常時覗けるようにする
- 葉っぱや霧吹きを適宜行う (2~3人ずつ)

虫かご 虫眼鏡 霧吹き



昆虫図鑑 絵本



虫

活動③ ～ダンゴムシを育てる～

「ダンゴムシは何を食べるのかな?」「どんなところが好きなのかな?」
という問いをもとにダンゴムシについて考え育てる。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・虫かご (大)
- ・霧吹き
- ・虫眼鏡
- ・昆虫図鑑 2
- ・絵本 (ダンゴムシみつけたよ)

事前の試し

- ・ダンゴムシの育て方を把握する
- ・土ありと土なしでダンゴムシの育ちを比べる

探究活動を実践する

●活動内容

ダンゴムシについて考え、育てる

●子どもたちの様子

「ダンゴムシは何を食べるのかな?」「どんなところが好きなのかな?」
という問いに対して

- ・「葉っぱ食べるんじゃない?」「お水飲むかな?」「ご飯食べる」食べそうなものを考え話す
- ・「公園が好き」「葉っぱだよ」「土が好き」子ども同士で話す
- ・慎重に霧吹きで水をあげる
- ・虫眼鏡を使用して絵本と実物のダンゴムシを見比べる



振り返りをふまえた気づき

戸外でダンゴムシを自分で捕まえたことから、ダンゴムシにより興味を持つようになった。園に持ち帰ったことから、ダンゴムシはどんなところが好きで、どんなものを食べるのかなどと暮らしに興味を持つようになり、育ててみることにした。ダンゴムシは湿ったところにいて葉っぱを食べることを絵本や図鑑で知ると、「水をあげると元気になるかな」と虫かごの土を湿らせるように優しく霧吹きで水をかけたり、戸外で拾った葉っぱをあげたりした。また、虫眼鏡を使って拡大して観察したり、絵本と実物を見比べたりしながらダンゴムシを探究する姿が見られた。自分たちで捕まえたダンゴムシを大切に育てる経験から、生き物に優しく関わる温かい心が育まれていった。ダンゴムシを育てた経験から、虫を見つけたら大きな虫かごに入れることが習慣になり、週末にはお家に帰してあげようと優しい気持ちが芽生えた。

ダンゴムシはどんなところが好きで
どんなものを食べるのかな？

R7.7.4 大島



戸外でダンゴムシを捕まえた経験からダンゴムシ関心を持っていた子どもたち。
捕まえたダンゴムシを虫かごに入れ、お世話をすることになりました。

「ダンゴムシはなにを食べるのかな？」
「葉っぱ 食べるんじゃない？」
「お水（湿ったところ）が好きなんだよ」

図鑑や絵本で得た知識を保育者や友だちに伝える姿もありました。

葉が古くなると新しい葉に変え、土が乾燥すると霧吹きで土を濡らします。
「ダンゴムシさん、元気になってね」

自分たちで捕まえたダンゴムシを大切に育てる経験から、
生き物に優しく関わる温かい心が育まれていきました。

活動④

アリの巣の静止画を投影した空間でアリの巣を描く

問 い

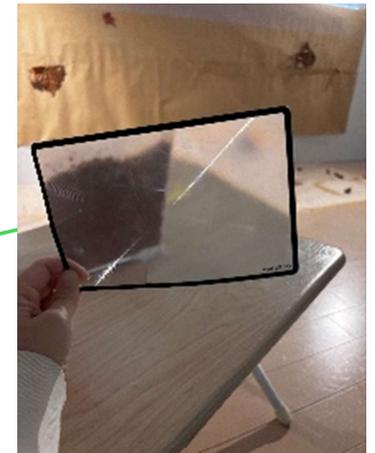
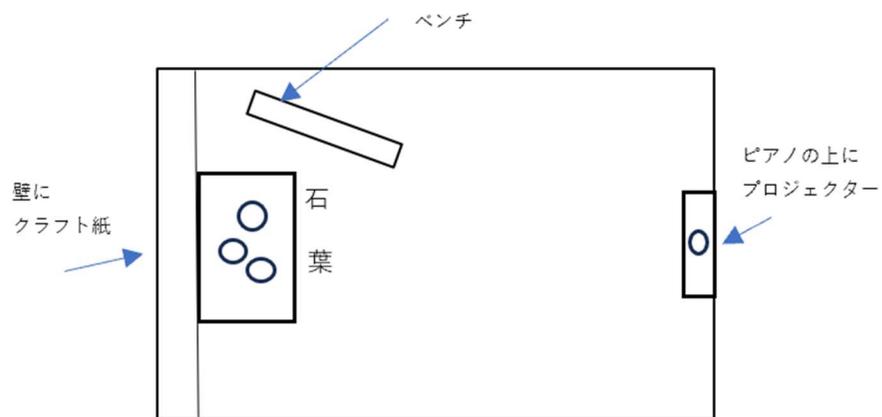
「アリのお家の中はどうなっているかな」

準備物

プロジェクター | スマホ | クラフト紙 | ベンチ(1) | 絵の具 (茶色、黒、白) | 筆(6) | パレット(6)

環境構成

- 壁に貼ったクラフト紙の上にアリの巣を投影する
- 2チームに分かれて行う (1チーム3人)



虫

活動④ ～アリの巣の静止画を投影した空間でアリの巣を描く～

「アリのお家の中はどうなっているかな？」という問いをもとにアリの巣を見ながら絵の具を使用してアリの巣を描く。

環境をデザインする

- 準備したもの
 - ・プロジェクター
 - ・スマホ
 - ・クラフト紙
 - ・ベンチ1台
 - ・絵の具（茶色、黒、白）
 - ・筆6本

事前の試し

- ・プロジェクターで投影する
- ・描く紙の高さや広さ、素材を確認

探究活動を実践する

- 活動内容
 - アリの巣の静止画を投影した空間でアリの巣を描く
- 子どもたちの様子
 - 「アリのお家の中はどうなっているかな？」という問いに対して
 - ・投影されたものを見ながら絵の具で表現
 - ・「こんな感じ」「ここはご飯を食べる部屋」「おトイレ」「足跡の部屋」「ゴリラ」
自分たちで描いたものを説明
 - ・白色の絵の具で丸を描き「赤ちゃん」（卵）と表現
 - ・子どもたち同士でアリの巣について話す



振り返りをふまえた気づき

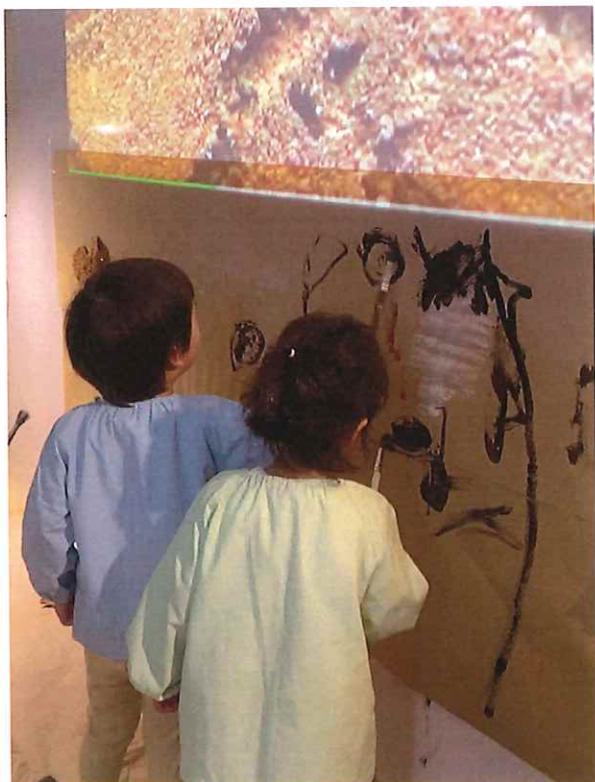
投影されているものを見ながらそれぞれアリの巣を描き、ご飯を食べる部屋やトイレの部屋などアリの巣の中身を想像しながら描く姿があった。また、白い絵の具が欲しいことを保育者に伝えアリの卵を描く子どももいた。部屋の明るさを暗くし、描く場所をライトで照らすことでアリの巣に入ったような没入感を味わいながらじっくり描くことに繋がっていた。アリの部屋は1つだけでなくたくさんある事に気づいている子どもがいた。

どんなお家かな？

R7.7.18 大島



アリを観察すること、図鑑を見ることが日常の一部になっている子どもたち。その過程で、『アリのお家』にも興味を持つようになりました。でも、覗いてみてもお家の中がどうなっているのか分からない…どんな形をしていてどんな部屋があるのか。見えないところは自分たちで想像を膨らませながら思い思いに表現していきます。



「まーるいかたち」「あかちゃん可愛いんだよ」「ここはご飯を食べるお部屋」「ここはおもちゃで遊ぶお部屋」「ここは～…へび!」「こっちはごりら」子どもたちならではの独特な視点やアイデアもあり、驚かされました。本物の映像を見ながら描くことで、その世界により没入し、想像を膨らませながら表現する楽しさを味わっているようでした。

活動⑤

虫の映像を見ながら虫の声を聴く

問 い

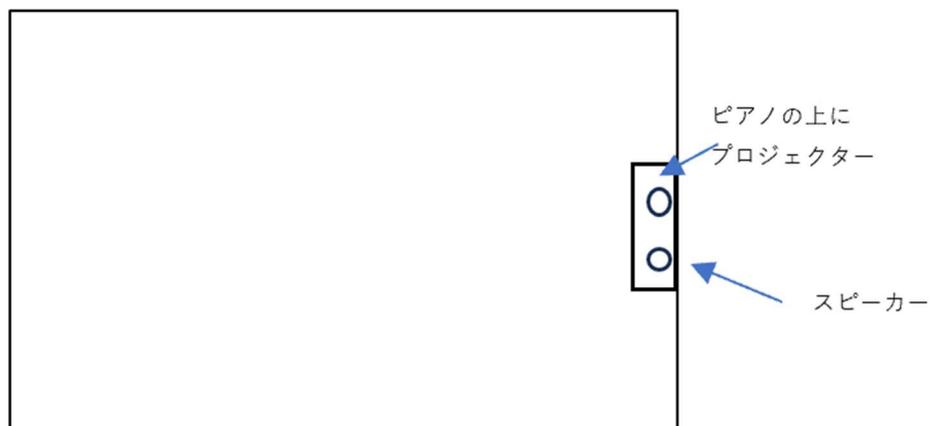
「この虫は鳴くかな」「どんな声かな」

準備物

プロジェクター | スピーカー | スマホ | 暗幕

環境構成

- 壁に秋の虫の動画を投影する
- 2チームに分かれて行う（1チーム3人）
- 自由に動けるように自由なスペースを確保する



虫

テーマを設定する

「この虫は鳴くかな」「どんな声かな」という問いをもとに、鳴く虫の映像を投影した空間で虫の声を聞いたり虫になりきったりした。

活動⑤ ～虫の映像を見ながら虫の声を聴く～

環境をデザインする

●準備したもの

・プロジェクター ・暗幕 ・スマホ ・スピーカー

事前の試し

- ・プロジェクターでスズムシやコオロギなど、鳴く虫の動画を投影する
- ・スピーカーを接続し虫の音がよく聞こえるようにする

探究活動を実践する

●活動内容

スズムシやコオロギ等鳴く虫を投影し、虫の声を聞いたり、虫になりきって身体表現をする

●子どもたちの様子

- ・虫の鳴き声を真似していた。友だちの様子を見て一緒に楽しむ姿もあった
- ・コオロギになりきって四つ這いで進んだり、「羽だよ」と羽が高速で動く様子をよく見て真似ている姿があった。
- ・「声が違うね」と気づいて友だちや保育者と違いを共有する子どももいた



振り返りをふまえた気づき

夏から秋に季節が変わり、身近な虫の種類が変わってきたことに気づいている様子がある。草の中に隠れている鳴く虫に興味を持ち、鳴く虫と鳴かない虫がいることに気づいた。虫の映像を見ながらコオロギやスズムシになりきる表現活動をしてみると、羽を動かして鳴いていることに気づく子どももいた。セミを表現した際にはパタパタ飛び回っていた子どもたちが、スズムシの表現では羽を懸命に動かして【鳴く】を表現していて子どもたちの観察力に驚いた。羽をバタバタさせる様子から羽に興味を持っている子どももいるので、身近な虫の羽も注目してみたい。

虫になる

令和7年10月15日 千葉



セミやトンボの表現の際には部屋を飛び回っていた子どもたちがコオロギやスズムシを見ると

羽の動きをじっと見つめていました

「見て！羽だよ」「パタパタパタパタ...」「あれ？」「音がするね」「鳴いてるね」

羽の震え・素早い動き・羽を動かしながら鳴いていることに気づきました。

友だちと四つ這いで動いて笑い合います。

身近な生き物への興味が身体表現へと自然と移行します。

ことばでの説明は難しいけれど、体そのもので感じた印象を表していました。

活動⑥

虫の羽を観察する

問 い

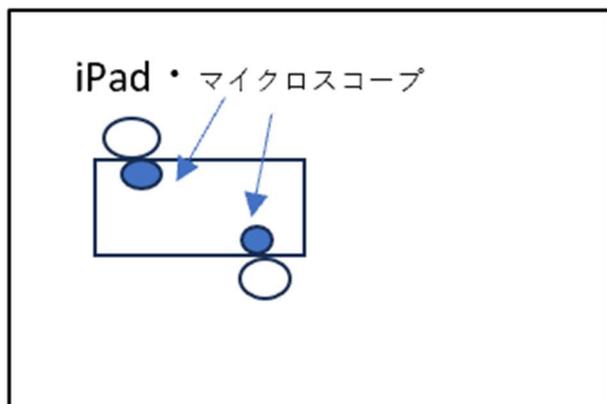
「どんな色かな」「羽はどうなっているのかな」

準備物

マイクروسコープ(2) | iPad(2) | 机(1) | 椅子(3) | 図鑑

環境構成

- 光が入るように保育室にテーブルをセットアップし、静かな環境で取り組めるようにする
- 2~3人の少人数で行い、じっくり観察しながら友達同士での対話を大切にする



虫

テーマを設定する

「どんな色かな」「羽はどうなっているのかな」という問いを立て、マイクロスコープで羽を観察する

活動⑥ ～捕まえた虫の羽の模様を描く～

環境をデザインする

●準備したもの

・iPad ・スマホ ・マイクロスコープ ・図鑑

事前の試し

・マイクロスコープで直接虫の羽を見ると破れたり、ちぎれてしまうので、ケースに入れて観察できるようにする。

・動かしながら観察するとぶれてしまうので、時々スクリーンショットを撮り、観察しやすいようにする。

探究活動を実践する

●活動内容

虫の羽を拡大し観察する

●子どもたちの様子

蝶々の羽を観察しながら友だちと模様の大きさや形について話し合う姿もみられた。

トンボの羽を見ながら図鑑と見比べ、どのトンボか調べようとしていた。

ふわふわやギザギザなど質感を表現しようとする姿があった。



振り返りをふまえた気づき

虫の羽の違いに気づきなせ違うのかを考えたり話し合う姿が見られた。

自分たちで捕まえた虫だからこそ興味を持ち、じっくりと観察していたように思う。

羽に模様があること、その大きさを指を使って比べたりする姿から子どもたちなりの探究が進み、模様を見比べる様子がある。図鑑を持ち出し、同じものを調べようとする自然と友だち同士で意見が出て、仮説を立てたり、話合えるようになっていた。

虫の探究

R7.10.31 千葉

「見て！トンボ、これと同じじゃない？」 「オニヤンマかな？」
トンボの羽を観察していると図鑑を持ち出して
これかな？これかな？と好奇心が動き出します。
マイクروسコープを通して見ると肉眼では見えない筋や質感が浮かび上がり
繊細な世界が広がりました。



拡大された世界は「もっと知りたい！」という探究心を育て
羽ばたきの不思議にそっと近づけてくれます

使用物

虫眼鏡(3) | 虫かご(1) | 虫網(2) | ミニ図鑑(2) | スマホ(2) | iPad(2) | iPadケース
マイクロスコープ(2) | プロジェクター(1) | アリの巣キット(1) | 拡大シート(2) | 拡大鏡(1)
透明シート小(1) | スピーカー | 昆虫図鑑『ふしぎがいっぱいだんごむし』
絵本『みぢかないきもの』 『うまれたよあり』

テーマ：虫

全体の振り返り

子どもたちが興味を持った虫をテーマに共感性が育つといいなという保育者の思いを加えて虫の探究が始まりました。ダンゴムシやアリ、てんとう虫や蝶々など春から始まった虫への興味は鳴き声の美しいスズムシやコオロギ、動きの大きいバッタやトンボなど秋の虫へ。そして、虫たちの帰る家や好きな食べ物、美しい模様へと探究が深まりました。共感性を育みながらもカマキリとバッタを同じカゴに入れていたら食べられてしまった場面にも遭遇しました。捕食や食物連鎖の経験も自然とすることになりました。そして、寒くなりいつもいた場所に虫たちが居なくなってきたことに気づく子どもたちは「どうして虫がいないんだろう？」「おうちに帰ったのかな？」子どもたちなりに仮説を立てて新しい問いと向き合う姿が見られるようになりました。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ三軒茶屋園

〒154-0011
東京都世田谷区上馬1-17-10-2階
TEL:03-6450-8402
FAX:03-6450-8403